

摘果痕を感染部位とするリンゴ枝腐らんに対する防除薬剤

【1 成果の概要】

- (1) リンゴ腐らん病には、摘果痕（摘果後の残存果柄、図1）から感染する枝腐らん（図2）があります。県内で摘果時期に用いられている薬剤の中では、ラビライト水和剤、ナリアWDG、パスポート水和剤が摘果痕感染に対して効果の高い薬剤です（図3）。
- (2) 1ヶ月程度続く摘果期間中の定期散布剤として、これらの薬剤を組み合わせると、腐らん病の摘果痕感染に対する同時防除として有効です（図4）。



図1 摘果後の残存果柄(摘果痕)
ここから腐らん病が感染します



図2 摘果期の感染による枝腐らん
中央左下の摘果痕から感染、赤い病斑部が枝に拡大

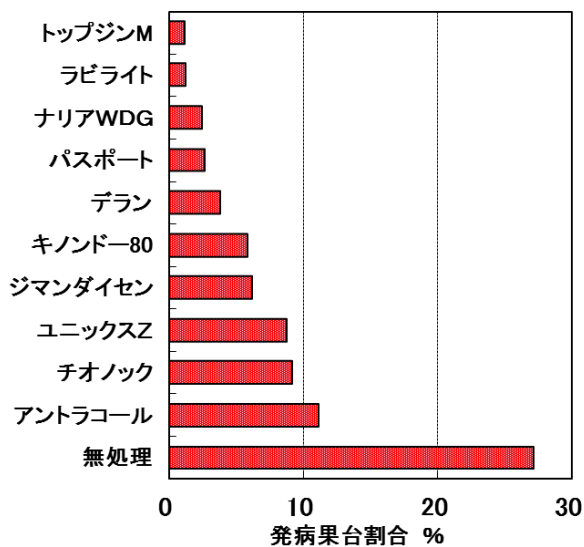


図3 腐らん病の摘果期感染に対する薬剤防除効果

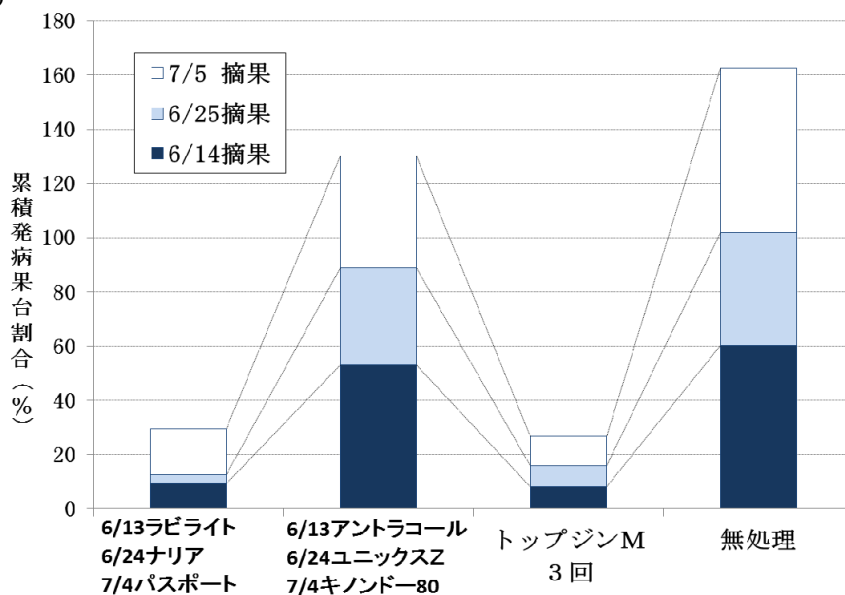


図4 3回散布(6月中旬~7月上旬)における防除効果:
左端の3剤の組み合わせは効果が高い

【2 留意事項】

- (1) 摘果痕への感染は、摘果後の果柄が長期間果台に残存するふじが多く、つがる、ジョナゴールド、王林等は少ない品種です。紅玉、北斗は中程度とされています。
- (2) 枝腐らんの感染は摘果痕の他にも、収穫期のつる折れ、つる抜け、剪定痕、枝の先折れ等で起こります。多発園地ではこれらの枝腐らん全体に対する薬剤防除や発病部位の除去、さらに胴腐らんに対する処置等、総合的に対策を実行しましょう。